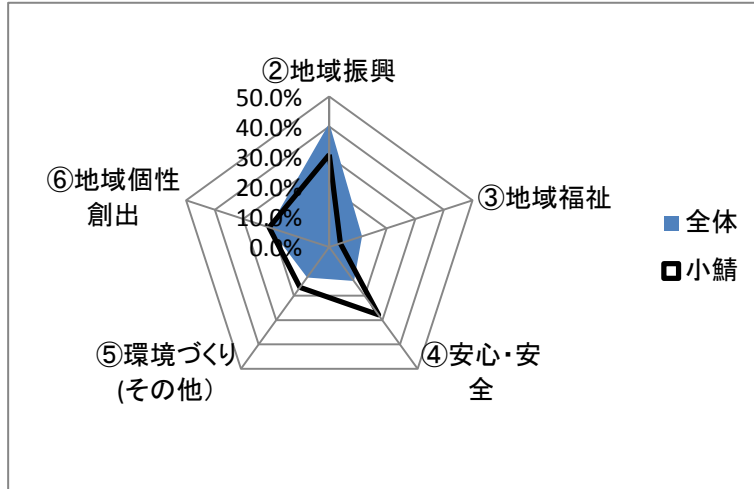


小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(平成28年度)

■地域の情報

地域人口	4628人	自治会数	23
世帯数	1,752世帯	自治会加入率	86.99%

※数値は、平成29年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,508,000 円
交付金決算額	7,459,785 円
その他収入	123,466 円
交付金決算額／配分枠	99.4%

各分野の決算

①協議会運営	3,936,403 円
②地域振興	1,118,935 円
③地域福祉	141,205 円
④安心・安全	1,015,398 円
⑤環境づくり(土木工事)	- 円
⑤環境づくり(その他)	604,498 円
⑥地域個性創出	766,812 円
決算総額	7,583,251 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民及び各種団体が連携・協力して、豊かで住みよい安全な地域づくりを進める。

■総括

平成28年度は、第2次「小鯖地域づくり計画」の終盤であることもあり、事業精査を行ないながら事業を推進しました。また、第3次「小鯖地域づくり計画」の策定作業がスタートする中で、3回の住民座談会を開催し、地域課題改善に向けた取組案を整理するとともに、「地域づくり協議会」として、さらに適した体制を検討するようにしました。各部会の事業取り組みもほぼ目標を達成していますが、協議会委員の負担は増しており、今後、第3次計画を推進する段階で、負担軽減にも取り組みます。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会全体の運営活動が円滑に進むように事務局を設け、各事業の運営を推進しています。
② 地域振興	活動計画の実施事業、広報活動、ホームページによる地域発信事業、新たな公共ニーズへの対応、地域活性化応援事業、コミュニティ交通調査、地域活性化センター期成、地区総合計画の検証、人材育成促進、地区外広報活動
③ 地域福祉	高齢者の生きがいづくり事業、子育て支援、ウォーキング事業、ふれあい配食事業、見守り訪問活動の充実、小鯖地区敬老会、高齢者サポート事業
④ 安心・安全	自主防災組織設立・訓練の推進、災害ボランティア事業の会の充実、災害弱者への対応、災害発生防止対策、交通安全運動徹底、子供の見守り活動、消防団の支援促進、防火防犯対策、避難時必要資材充足
⑤ 環境づくり	花いっぱい運動(花壇整備)、一斉清掃活動、鳴滝公園の観光地化、正田山の環境整備、反射鏡設置
⑥ 地域個性創出	あいさつ運動の推進、三世代交流大運動会・伝統行事の継承、小鯖夏まつり、小鯖ふるさとまつり、ニュースポーツの振興、青少年の健全育成

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	自主防災組織の設立と防災訓練実施	決算額	54,932円
	目的	地区住民への防災意識向上を図り、自主防災組織設立につなげる。		
	実施内容	小鯖自主防災会を設立し、地元単位地区自主防災会と合同で避難訓練を実施しました。		
	実施時期	防災訓練 11月6日		
	参加人数	単位地区自主防災会約80人、一般参加80人		
	成果	避難誘導、状況確認等、本部体制のシュミレーションも含め実施できました。		
	評価	災害時避難所での心得、知識について体験的に理解できました。		
	今後に向けて	今後も継続して、自主防災に関する意識を高めるとともに訓練を推進する必要があります。		
②	事業名	さばろっち着ぐるみ作成、イベントでの活用	決算額	500,096円
	目的	着ぐるみを作成し、イベントを印象深いものに高めるとともに、地域への愛着を深める。		
	実施内容	小鯖のゆるキャラさばろっちの着ぐるみ作成		
	実施時期	10月31日完成。11月20日のふるさとまつりにおいてお披露目、以降順次活動。		
	参加人数	各回100～1000人程度のイベント参加者があります。		
	成果	ふるさとまつり、幼稚園、小学校竹馬大会、山口市交通フェスタ等幅広くPRできました。		
	評価	児童や親子連れに人気を得ており、小鯖のPRにつながっています。		
	今後に向けて	着ぐるみ「さばろっち」の活用ルールの確立、人材養成を行なうとともに、SNS等を活用した情報発信を行う等、さばろっちを通じた地域づくりの価値の発信が必要となります。		
③	事業名	正田山の環境整備	決算額	228,001円
	目的	地域のシンボルである正田山の貯水タンクの塗り替えを通じて、地域への愛着を深める。		
	実施内容	地域の人々の参加を募り、貯水タンクの図柄を5年ぶりに塗り替えをおこないました。		
	実施時期	10月15日		
	参加人数	26人		
	成果	1階部分の絵の塗り替えを行なったほか、新たに小鯖のゆるキャラ「さばろっち」を描きました。また、新聞にも取り上げられるなど、小鯖のPRにつながりました。		
	評価	地域のシンボルである正田山の魅力アップにつながるだけでなく、整備の過程を多くの人と共有したこともあり、正田山に対する愛着が増す活動になりました。		
	今後に向けて	平成29年度に予定されているトイレの整備とあわせて、民有地部分の雑木除去や、遊歩道部分の間伐、清掃活動等、他の活動と連動しての環境整備活動が必要となります。		